

(学校番号038) 令和4年度版「学力向上ポータルフォリオ(学校版)」【大牧小学校】

4月28日 目標・策		
知識・技能	R3年度全国学力・学習状況調査及びR元年度市学習状況調査の自校結果より、国語・算数の「知識・技能」において2pt向上させる。	⇒ 課題克服応援シートを活用した朝学習、「ドリルパーク」、「スタディサプリ」等を活用した漢字や計算の反復・習熟に取り組む。その際、児童の学習履歴を活用し、児童が目的をもって取り組み、個別最適な学びになるよう支援する。
思考・判断・表現	R3年度全国学力・学習状況調査及びR元年度市学習状況調査において2pt向上させる。	⇒ 「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」の実践を目的の一つとした校内のメンター・メンティー部会による授業の見合いを行う。その際、学習を関連付けの見方・考え方を育成するため、既習事項との関連を意識させたり、教科横断的な学習を推進する。また、タブレット端末を活用し、協働的な学びを充実させる。
主体的に学習に取り組む態度	R4年度全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査の「課題の解決に向けて、自分から取組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を85%以上にする。	⇒ 「習得→活用→探究」を意識した学習計画を児童と一緒に作成し、学びに課題意識をもたせる。また、学習のふり返りを毎時間行い、自分の考えの姿容に気づかせるようにする。

9月2日 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
知識・技能		⇒ 変更なし
思考・判断・表現		⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度		⇒ 変更なし

8月26日	
全国学力・学習状況調査結果・分析	
<p>国語では、「言葉の特徴や使い方に關する事項」「話すこと・聞くこと」「読むこと」で全国の平均正答率より3ポイント以上上回った。「我が国の言語文化に關する事項」では平均正答率が下回った。読みやすさを考えて書き直したポイントを選ぶ問題だったため、日常的に相手を意識して文章を書かせる経験を積む。本校の課題としている「書くこと」では無回答率が下がり、粘り強く取り組む姿勢が向上し、正答率も校内比較で上昇傾向が現れた。条件に合わせて書くことは引き続き課題となっている。</p> <p>算数では、「数と計算」「図形」「データの活用」で全国の平均正答率より3ポイント以上上回った。一方、「変化と関係」は平均正答率が僅かに下回った。割合や比例など定義を理解し、日常の具体的な場面で活用できるような指導を意識していく。評価の観点別で見ると、「知識・技能」と「思考・判断・表現」ともに全国の平均正答率より上回っているが、「知識・技能」の方が低かったため、基礎・基本の定着を朝活動の時間等にタブレット端末を活用して改善を図りたい。</p> <p>理科では、どの分野でも全国の平均正答率を上回っている。これは、周辺の自然環境を活用した体験的学習を低学年から行っていることから、理料的な思考力や考察力が養われていると思われる。一方で、児童質問紙の結果からは理科への関心等が国語、算数と比べると低く、平成30年度との校内比較でも低下している。コロナ禍で、思うように実験が出来ていないことが影響していると考えられる。今後、理科の学習への興味・関心を高める取り組みを行ってきたい。</p>	

2月20日 さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3	令和元年度との校内比較をすると、国語は3ポイント以上下回り、算数は3ポイント以上上回った。令和4年度市平均と比較すると、国語3ポイント未満、算数は3ポイント以上上回った。	小4	令和元年度との校内比較をすると、国語・算数ともに3ポイント未満で下回った。令和4年度市平均と比較すると、国語3ポイント未満で上回り、算数は3ポイント未満で下回った。
小5	令和元年度との校内比較をすると、国語は3ポイント以上下回り、算数は3ポイント未満で下回り、社会・理科は3ポイント以上上回った。無回答率に注目すると、算数の「データの活用」が他領域や市平均より上回った。	小6	令和元年度との校内比較をすると、国語は3ポイント未満で上回り、算数は3ポイント以上上回った。令和4年度市平均と比較すると、国語・算数・社会は3ポイント未満で上回り、理科は3ポイント未満で下回った。領域別で確認すると、国語の「情報の扱いに關する事項」、算数の「データの活用」が市平均より下回っている。理科では、「地球」を社とする領域で市平均より3ポイント以上上回った。

2月27日 成果指標に対する達成状況		評価(※)
知識・技能	全国学力・学習状況調査では目標を大きく達成したが、さいたま市学習状況調査においては目標をわずかに達成できなかった。	B
思考・判断・表現	全国学力・学習状況調査では目標を達成したが、さいたま市学習状況調査においては目標を達成できなかった。	B
主体的に学習に取り組む態度	全国学力状況調査では90%以上の肯定的回答が得られた。さいたま市学習状況調査では質問があった5・6年の両学年で85%以上の肯定的回答が得られた。よって目標は達成した。	A

3月10日 次年度への課題と改善策	
知識・技能	基礎・基本の定着に向けた取り組みを家庭と連携を取り合いながら行い、児童の自律的な学びを支援していく。ICT活用や教科担任制の工夫などを通し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に行うことで、児童の力が発揮できるようにする。
思考・判断・表現	身に付けた知識・技能を活用して考える学習場面や教科や学年を横断したスパイラルな教材研究の視点を充実させ、児童の思考力、判断力、表現力を高める指導を行っていく。また、「書くこと」についての無回答率が市平均よりも高かったことから、普段の授業の中から複数の事項を関連付けて考えて書いたり、教科を問わず字数制限を設けて書いたりするなどの取り組みを行う。
主体的に学習に取り組む態度	総合的な学習の時間(STEAMSTIME)に限らず、各教科で探究的な学び(学びのSTEAMSTIME)を意識し、問題解決型学習やプロジェクト学習など主体的に学習に取り組める手立てを充実させる。また、無回答率が市平均よりも高かったことは、ねばり強く取り組むことに課題があると考えられるので、教科を問わず学習のゴールを明確にしてねばり強くやり抜く力を高めたり、個に応じた支援を適切に行うことでやり抜く経験を増やしたりする。

※評価
 A 8割以上(達成) C 4割以上(あと一歩)
 B 6割以上(概ね達成) D 4割未満(不十分)